

して再考すべき第一点ではなからうか。同時に業者の「糞儲け」の気持は、業者職員に共通し、多くの苦情の根源をつくっている。清潔な服装と親切な態度で悪習を捨て去れば市民も自然と好意的な感情をもつようになるであろう。それを理想として、一致して悪習排除に努力すべきである。

<清掃局管理部長>

<コメント>

## 清掃行政に対する希望と 意見

森本三男

### I——— 科学化の必要

現代の都市生活は、排出されるゴミとふん尿の収集・処理の問題をぬきにしては考えられない。大量生産・大量消費の高度産業社会へ移行するにつれ、ゴミはたんにその量を増すのみでなく、その内容をも大きく変えていく。まことにゴミは文化のバロメーターであって、都市化によるゴミ処理の問題は、たんに大量収集・大量運搬・大量処理の問題だけにとどまらず、従来のゴミの概念にはいない新しいゴミの出現くたとえば遺棄された廃車>にともなうゴミ処理の多角化の問題が同時に起ってきた。し尿の処理は、究極には下水道の完備につきるが、予想をはるかに上回る郊外への都市化の広がり、下水道の普及率の維持にすら困難をきたし、地形・交通などの要因がいつ果てるともつかない汲取り方式のし尿処理をいっそう困難にしている。こうした現状は、まさに別稿「清掃行政の実態と提案」<以下「提案」と略称する>に示されているとおりである。

問題打開のためにまず考えなければならない点は清掃行政の体系化ではなからうか。たとえば、現在の横浜市では、ゴミ処理については、一部大口のものを除いて直営・無料方式がとられている。これとまったく逆に、し尿処理においては一部大口のものが直営方式であるだけでほとんどすべてが民営<許可業者>によっている。料金問題はおくとしても、直営・民営がなぜこのようにまった

く逆の体系をとっているかについて納得のいく説明はえられない。その原因のほとんどは、過去の行きがかりから生じたものとしか説明されないのである。これはほんの一例であるが、主体・対象・料金・技術・地域などの各点から清掃行政の体系を再考する時期にきているのではあるまいか。

もう一つの重点は、「提案」にも衛生工学の顕著な進歩を行政に反映すべきむね強調されているがそれをさらに拡大し、行政全般にわたり各般の科学を積極的に導入することの必要である。大八車や馬車でゴミやハニー・バケットを運んだ時代とは問題の次元がまったく異なってしまった。ゴミやし尿の大量・多角処理を効果的<衛生的・能率的・経済的>に行なうためには、衛生工学はもとより、運搬工学、労働科学、原価計算、経営学などの知識をもっと積極的に活用することが必要である。このような科学化は、上述の清掃行政の体系化と密接不可分であることはいうまでもない。

さらに、このような主張を推進するものとして、「提案」に盛られた企画部門に大きな賛意と期待を表明したい。

当面のこととしては、清掃行政の整備に並行した不法投棄など反社会的行為に対する罰則の強化、地域別くたとえば汲取り地域、浄化槽地域別、一般収集・計画収集別>にボランティアの清掃モニターを設けるなどを考えてもよいのではないか。

## 2—————ゴミ処理の多角化と有機化

ゴミ質の多様化のうち、「提案」が指摘されるように、不燃性ゴミの収集処理は大問題であろう。

「提案」はこの点について、現在の混合収集を改め、月1、2回程度、不燃性ゴミの特別収集をうち出しているが、まことに適切なことと思う。この点について、さらに収集の時期をもあわせ検討

いただきたい。すなわち、かなり広い範囲のところで、住民は住民組織<自治会など>を利用して月1回ていど清掃をしている。住民組織との話し合いを有機化し、住民の清掃活動とゴミ収集を結合することである。清掃日は日曜日が多いと思われるが、翌日の月曜日でもよい。また清掃によって出される不要物の中には、土木局扱いのものも含まれることになるが、これは当局の内部で調整すべきであろう。このようにすれば、ゴミの物理的処理のみでなく、住民の清掃意識向上にもつながることと考える。第2に「提案」に盛られた営業用じんかいの有料化であるが、一定の基礎控除量を除いた分について、有料化は当然であろう。第3に、ゴミ質の向上と環境衛生上の見地から、フタつき容器の義務化を進めてもよい時期にきているのではあるまいか。

## 3—————し尿処理のための急速な体制整備

他都市に比べて明らかに過大な業者の整備<1車1社というようなのは適正規模の論外にある>、料金水準の合理化<現在では科学的な原価計算体系も業者の財務報告も欠如している>、料金体系の検討<従量制か人頭制か>などについて、早急に構想をうち出す必要がある。なお、公害防止とのかね合いと、現状の弱点の角度から、浄化槽の維持管理の指導を強化してほしい。適時の清掃や適正な投棄を怠っている住民がかなりある。その原因の一半は、使用者である住民自体へ密着した指導が弱かったからではあるまいか。以上、紙数に制限され意をつくしえないが、若干の希望・意見をのべた。当局・関係者の努力に感謝しつついっそうの発展を期待したい。

<横浜市立大学助教授>